

こころのふるさとへ帰ろう ～ 多自然地域における

古民家等の再生および地域の魅力発信事業について ～

紡 -TSUMUGI- 代表 山本 早希

私は多可町で、古民家等の活用と、地域再生に取り組むボランティア団体の代表をしています、山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私たち紡は、町民の集まりの団体で、平成 29 年の 3 月 20 日に設立したので、まだ活動を始めて 1 年ちょっとしか経っていません。現在は、多可町に移住してきた人、U ターンしてきた人、多可町内で古民家の改修を行っている大工、現役の役場の職員、商工会の職員等の 8 人がいます。そして私はつい 3 ヶ月前まで、多可町の職員をしていました。3 月末に退職して、活動を本格的にやっていこうと思い、今は個人事業で頑張っています。紡は、様々な経験や、多彩な視点を持っているメンバーが集まっています。

私たちは空き家を直す・使う・遊ぶ・学ぶという大きく四つのテーマに絞って、活動を展開しています。目的は、兵庫県多可町を中心に古民家の再生と、その活用として地域の活力を取り戻すこと、古民家再生のプロジェクトや、古民家等を使った創業支援への取り組みです。多可町は電車が通ってない地域ですので、田園風景や山が自然そのままに残っていて、多可町の中の一つの風景として溶け込んでいます。古民家は昔から土地に存在して人々と一緒に暮らしや生活を共にしてきて、私達メンバーは地域の宝だとみんな思っています。そういう古民家を、ボロボロになったから、使わないからという理由で潰してしまうのは簡単ですが、100 年間今まで続いてきたものを壊してしまうのは勿体ない、というのを基本理念として取り組んでいます。

「直す」という部分では、古民家の改修ワークショップを定期的で開催しています。空き家を「使う」部分では、移住してきた方たちの住宅にしたり、空き家で店舗を開きたいという方たちの創業支援のお手伝いをしています。また、古民家や古い建物を使ったイベントの開催もおこなっています。空き家で「遊ぶ」というテーマでは、古民家の中でミニライブを開いたり、古民家と他のジャンルを掛け合わせた、新しいイベントも開催しています。空き家で「学ぶ」という部分では、私たちが古民家の改修ワークショップをしているところは、昔からの羽釜がそのまま残っているものがあります。私たちもそこで初めて羽釜を見たんですけど、日本の伝統文化や食文化をワークショップと併せて、楽しみながら学んでいます。また、古民家の空き家ツアーでは、ぼろぼろになった家を見て回ったり、昔の良い木材を使って建てられた古民家を見て、日本の伝統建築を学ぶ、という活動を行っています。

いくつか集落に空き家がある状態に、大工やワークショップに参加してくれるボランティアさんたちが集まってくことで、周りの人たちも「何をやっているのかな」と地域活性化に取り組んでくれます。周りの人たちが私たちの活動を外で PR してくれたり、今日こういうことをやってきたよ、と SNS を通じて発信してくれたりして、PR を勝手にしてくれる流れをつくっています。

こうやって、いろんな人たちが集まって、空き家に少しでも明かりが灯るように、というのを目標にしています。今から流す動画は、私たちがいつも毎月第3土曜日に、古民家改修をさせてもらっているワークショップの映像です。紡のメンバーの大工に伝統方法を教えてもらいながら、ボランティアさんたちの力で床板を貼ったりとか、土壁を塗ったりとか、ボロボロになっているものを取りところから始めたりして、建築方法を学びながら、みんなで楽しんで古民家を改修しています。古民家改修は本職さんに頼むと結構お金がかかりますが、出来る部分は私たちとボランティアでやることによって、利用者さんや持ち主さんの負担を軽減することも出来ます。いろんな人たちが関わった古民家が店舗になったら、みんなの関心を集めることが出来ます。また、みんなで輪になって古民家のことについて学ぶことで、人が集まれる場所や、地域のことを考える場所になっています。多可町に移住をしてきたいという人たちも参加をしてくれます。移住先に知り合いがいることは、すごく心強いこととお聞きします。多可町の古民家の紹介もできるし、多可町の仲間づくりの場としても活用して頂いています。

「使う」に関しては、例えば尼崎からお母さんと娘さん2人で移住し、古民家を活用してサロンを開きたいという方がいらっしゃいました。最初の大掃除や、素人で出来る改修のお手伝いをさせてもらって、店舗づくり、創業支援事業も、ボランティアでできる範囲ですが行っています。また、多可町は「播州織り」という伝統産業があります。播州織に関わられていた事業者の方が多いので、町内の民家から古い写真を集めて、空いてる旧工場を活用して、ふるさと写真展を開催しました。若い方たちが頑張られているグループと一緒にお店を出してもらったり、意見交換をしたり、古い建物の活用を含めて、播州織について改めて考えました。テレビや民放の取材にも来ていただいて、播州織の業者さん達のいいPRになったと思います。もう何年も使われなくなって、上のガラスも破れていたんですけれども、私たちで全部大掃除をして、写真展をしました。皆、懐かしんで写真を見てくださいました。また、二つの団体さんから、「この工場、使っていないのだったら使いたい！」という申し出をいただきました。そのうち一つは話を進められているところです。空いている施設を使うことで、情報発信をして、新しく使ってくれる人を探そう、という目的も持っています。

「遊ぶ」は、さっき紹介したミニライブです。神戸の人や、南米ペルーの音楽をされている二人組などに、古民家でライブをして頂いています。

「学ぶ」は、羽釜で毎回ご飯を炊いて、必ず皆で食事を囲んで食べる、ということを大切にしています。玄米のご飯を子供達が握ってくれたり、地域の方にこんにゃく作りを教えて頂いています。また、古民家ツアーでは、多可町に

は屋根や床に穴が空いている家、そのまま使える家など、いろんな古民家を見に行きます。例えば、移住希望の方は物件の内覧が出来ます。大工に修理部分の直し方やその費用を教えてもらったら、私たちの勉強にもなるし、古民家の購入を考えられている方の勉強にもなるので、定期的を開催していて、去年は4回しました。おかげさまで、新聞には10回以上記事となり、テレビの各局でも私たちの活動を紹介して頂いています。

私たちの新しいチャレンジとして、山の中を切り開いて3万株くらいのラベンダーが植わっている「ラベンダーパーク多可」という施設での活動があります。ラベンダーは7月8月ぐらいしか咲かないので、1年の内、10か月は目玉がない施設となっていて、特に冬の活動をどうするかという課題がありました。多可町は自然が豊かで、夏になると蛍がいろんなところで飛んでいるんです。そこで私たちは、冬に蛍を飛ばしてみたらどうだろう、という案から、新聞紙と黒く染めた障子紙で蛍行燈を120個作って飛ばす、というイベントを去年、試験的にやってみました。ゆらゆら揺れるところに2箇所穴が空いた中にはLEDライトが入っていて、それがくるくる回るとついたり消えたりするように見える、という仕掛けです。今年の12月のイベントでは1,000個を目標に取り組んでいます。婦人会や、子ども食堂、ライオンズクラブにもお声掛けを頂いて、地域の人たちを巻き込んで、一緒にみんなで作っていきます。多可町はイルミネーションイベントがないので、冬にみんなが集って、綺麗だな、と見ることが出来たらいいなと思って取り組んでいます。

続きまして、加美区に岩座神（いさがみ）という棚田が広がっている地域があります。そこに東京から若い夫婦が越してきて、カフェと農泊をしたいということで、紡に相談に來られました。これもみんなで直したりお掃除したり、若い夫婦とその家族を応援するプロジェクトをさせて頂いております。岩座神はほぼ限界集落で、いまは全然若い人たちが居ないので、東京から若い人たちが来るならみんなで応援しようじゃないかと言って、ボランティアと村の人たちもみんな一緒になって古民家を掃除しました。最後はみんなで記念撮影したんですけど、だいたい40〜50人ぐらい集まって、とても楽しいイベントになりました。

兵庫県青少年本部のふるさと青少年隊事業も活用させて頂いています。多可町には外国の方と触れ合う機会がないので、国際交流の拠点を作ろうという事業に取り組んでいます。播州織りの工員住んでいらっしゃった古い寄宿舎を利用して、国際共同交流の拠点にすることや、青年隊の方々に来て頂いて、いろんな視点から多可町のふるさとの魅力をもう1回発見していただこう、という目的で取り組んでいます。

紡はボランティア団体で、メンバーは昼間お仕事をしているので、本当に出

来る限りの小さな活動しか出来ていないんですけれども、私たちが出来る範囲の、古民家を中心とした地域づくりの活動に、これからも取り組んで参りたいと思っております。皆さまよければお声掛けいただいて、私たちの活動を応援していただきたいですし、ぜひ事業に関わっていただきたいなと思っております。ご静聴ありがとうございました。